

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2827 号

Relationship Between Skeletal Muscle Quality and Hospital-Acquired Disability in Patients With Sepsis Admitted to the ICU: A Pilot Study

ICUに入室した敗血症患者における骨格筋の質と入院関連能力低下の関連

高橋 佑太 (たかはし ゆうた)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、集中治療室に入室した敗血症患者における骨格筋の質と入院関連能力低下 (hospital-acquired disability: HAD) の関連を検討したものである。本研究の結果、急性期に骨格筋エコーで測定された筋輝度と生体電気インピーダンス法で測定された Phase angle は退院時の HAD と関連する可能性が示された。

**【新規性、創造性】** 本研究の新規性は敗血症患者を対象に骨格筋の質を調査した点にある。また骨格筋の質とリハビリテーションの目標である生活機能の再獲得との関連を報告した点も本研究の臨床的意義を高めているものと考えられる。

**【方法・研究倫理】** 本研究は 22 例の敗血症患者を対象にしており、日常診療に非侵襲的な骨格筋の質の評価を追加した前向き観察研究である。実施施設の研究倫理審査の承認を得て適切に実施されている。

**【学術的意義】** 本研究の主要な結果として HAD 群では有意に筋輝度が高値 ( $p < 0.001$ ) であった点や Phase angle が低下 ( $p = 0.036$ ) するパターンを示す点から、HAD のハイリスク患者の早期スクリーニングおよび予防に繋がる知見を報告しており、臨床現場に還元可能な研究であると考えられる。

**【考察・今後の発展】** 本研究から得られた知見の活用として、集中治療室におけるリハビリテーションプログラムを選択する上での判断基準に骨格筋の質の指標を用いる等が考えられる。これらの指標をガイドとして積極的なプログラムを適用することで、集中治療後の生活の質の向上に繋がることが期待される。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。